

運動場南側より校舎を望む

(平和写真館提供)

二
挨拶

寒氣厳しい折柄、同窓会会員の皆様には益々御健勝にて昭暦五十七年の新春をお迎えになり、各方面に御活躍、御精進されて居ります事は、大方慶至極に存ずる次第で御座います。

同窓会の過ぎ去りし一年の歩みを御報告申
し上げますと、二月七日に揖斐郡の教職員の
先生方の同窓会が大野町に於いて行われ、四
月十八日には関西支部の総会が神戸国際ホテ
ルに於いて行われました。岐阜支部の総会は
五月九日に岐阜のニューナガラ館に於いて盛
大に開催され、十八回卒業の横山副知事を初
め百二十有余名の出席があり、盛大で御座い
ました。本部の総会は八月十五日に岐阜市に
於いて開催され、名古屋支部の総会は十一月
二十一日に名古屋市に於いて開催されまし

各総会共などやかなムードの裡に開催され、同窓会は且つて同じ学びの園を巢立ち致しました者が一堂に会し、青春の時代に思いを致し、数々の思い出話に花を咲かせ、時間のすぎるのも忘れ、世代の相違を乗り越えて友情の輪を拡げ、且つ友情の絆を強められたので御座います。

昭和五十六年度
総会報告

は、六十周年に関連した諸施設を母校に寄贈致しました。体育館の綱帳並びに関連施設と、第二運動場の門の施設と、シャワー付更衣室を兼ねた器具庫を一棟寄贈致しました。更に現在の図書館を移築改造して、合宿所を寄贈することに相成って居ります。現在の校舎の内に木造の建物が一棟残って居りますので、改築を県当局に御依頼致して居りますが、その改築の折、図書館を解体移築し、表面は昔なつかしい従来のままの姿にして、内部は合宿の施設に改築致す事に相成って居ります。校舎の改築も色々の事情にておくれて居りますが、早く実現致します事を期待致し居る次第で御座います。

寒さも暫く続きますが、何卒健康に充分御注意され、益々お元気で御活躍されます事を祈念致しまして御挨拶と致します。

各支部の総会開催に色々とお骨折を頂戴致しました各位に対し、深甚の敬意と謝意を表する次第で御座います。

一昨年十月十八日に、創立六十周年の記念式典が嚴肅の裡に盛大に滞り無く終了致しました事は、御同慶の到りに存じます。記念の行事・事業に付きまして格別の御協力を頂戴致しまして、ありがとうございました。

本校多年の宿願でありました第二運動場も、お陰をもちまして完成致し、県下に数ある高校の内で、他に例を見ない硬式野球も出来る立派なグランドで、毎日効率的に使用されて居ります事は、御同慶の到りに存じます。

募金も予想を遥かに超ゆる多額を頂戴致しました。予定額をオーバー致しました金額

は、六十周年に因る連した諸施設を母校に寄贈致しました。体育館の綏帳並びに関連施設と、第二運動場の門の施設と、シャワー付更衣室を兼ねた器具庫を一棟寄贈致しました。更に現在の図書館を移築改造して、合宿所を寄贈することに相成つて居ります。現在の校舎の内に木造の建物が一棟残つて居りますので、改築を県当局に御依頼致して居りますが、その改築の折、図書館を解体移築し、表面は昔なつかしい從来のままの姿にして、内部は合宿の施設に改築致す事に相成つて居ります。校舎の改築も色々の事情にておくれて居りますが、早く実現致します事を期待致して居る次第で御座います。

寒さも暫く続きますが、何卒健康に充分御注意され、益々お元気で御活躍されます事を祈念致しまして御挨拶と致します。

昭和五十六年度
総会報告

昭和五十六年八月十五日（土）午後二時より、岐阜市の「ホテルニューナガラカン」で56年度の総会が開かれた。お盆の土曜日とあって、出席者の出足が心配されたが、五十余名の出席を得て、大野岐阜副支部長の司会で総会は始まり、山田副会長の開会の挨拶、井深同窓会長・河合校長の挨拶のあと、議事に入った。事務局より会務報告、会計決算報告、監査委員による監査報告、統いて東屋教頭より創立50周年記念奨学金給付報告、次いで事業報告として理事会、総会、同窓会により発行の計画等の報告があつた。そのあと、本年度は役員改選期にあたり、林弘司氏の選考委員長より報告があり、永年同窓会に寄与のあつた故高橋重信副会長と、兼ねて申し出のあつた石川絹子副会長の後任に、翠正明経理部長と高木つた子総務部長をそれぞれ承認し、石川絹子氏を顧問に推举された。また、特に発言があつて、総会の出席者を多くするかの意見を寄せられ、事務局が今後検討する課題となつた。総会後、懇親会に入り、懐しい10名の恩師を交え和やかな談笑が続き、夕刻盛会裡に散会した。

ご挨拶

校長 河合 敏緒



昨年四月、前校長

関谷美智男先生のご
榮転のあとをうけ、
本校校長として、そ
の重責をうけること
になりました。私は

旧制本巣中学校第十九回の卒業で、教師としての初任が旧制本巣中学、教頭時代も本巣高校と、至つて本校と関係が深く、その上校長として赴任したわけですから、その因縁の深さは格別で、それだけに責任の重さを感じております。



ご挨拶

副会長 翠 正 明

一般、はからずも副会長に選任されましたが、他に先輩も多く、私は若輩の身でその任ではありますので、強く辞退を申し上げましたが、諸般の事情でついにお引き受けすることになりました。

私は昭和十二年三月本巣中学校を卒業後、入されたわけですが、この運動場の拡張は昭和二十三年八月、本巣高女との合併によって学校規模が一挙に二倍近くに拡大した時以来の念願でした。今、第二運動場はソフト部とハンドボール部が主として使用しておりますが、伸び伸びと走り廻っている様を見るにつけ、同窓会のご厚意、ご尽力に感謝せざにはおれません。

ところで最近の本校は、勉学の面でも、部活動の面でも、県下有数の学校になつております。本年度は大学進学で、国公立四年制大学で八十名、私立四年制大学で四百二十九名の合格者を出しました。部活動ではソフト、

ハンドボールがインターハイに、女子バレーボールが滋賀県体に出場し活躍しました。その他の文部も近年にない好成績をあげております。文武両道といいますか、勉学と部活動の均衡のとれた活動ぶりは、県内高校の最先端を行くものと各方面から注目されております。

このように活力溢れる学校になつておりますのも、「質実剛健」「志操堅固」という創立以来の伝統の精神が強く流れていることと共に、財団法人加藤記念奨学会や、創立五十周年記念奨学会にみるような、先輩諸氏の後輩を思う暖かいご厚情や、何かにつけて母校の若々しく朝氣に満ちた気概を再現し、松の緑に象徴される繁栄を目指して進みたいと思つております。

同窓生の皆様の母校愛に期待し、益々のご指導、ご鞭撻を心からお願いいたしますと共に、同窓会のご発展を心からお祈り申しあげます。この栄光に輝く母校の副会長に御推薦をいただき、身に余る光榮と恐縮している者でございます。

本巣高校は、旧制本巣中学と本巣高女が一体となり、六十余年の歴史を誇る高校でございます。この栄光に輝く母校の副会長に御推薦をいただき、身に余る光榮と恐縮している者でございます。

母校同窓会の副会長になつて

高木 つた子

さて、私はいつも両親よりこんな風に戒められて、それを信条として今日に至つて立派に完成されました。同窓会も過去一、三回理事会に於いて、同窓会館を含めて、図書館の保存等について協議されてきましたが、幾多の事情もあり仲々結論も出されていません。何づれ今後、会長も広く関係者の意見なども聞かれて協議されるものと存じます。又その外、同窓会としては卒業生も年々増加して行くことですし、その運営についても困難を増すことなど、種々問題点があると思いますが、卒業生一同が我々の同窓会として益々発展するよう、一人一人が努力をして行かねばならないと思いま

す。私は昭和四十五年七月に公務員を退職し、家も学校の近くと云うことで、理事に選任されて以来（昭和十九年八月～昭和二十一年六月の間、北支で従軍しましたが）今日まで引き理事事を勤めて来ましたが、この間、同窓会の会議にはいつも召集を受けまして、微力乍らお手伝いして来りました。私の勤務は国家公務員で全国異動が普通ですが、遠い所へは行かず岐阜県内と愛知県内で勤務していましたので、同窓会の会議にも殆んど出席することができました。それ故に今回も、副会長の職をおおせ付かることと存じます。

同窓会も昨年は学校創立六十周年を迎えておりました。部活動ではソフト、

ご挨拶

河合 敏緒

ご挨拶

校長 河合 敏緒

に寄せていただくご指導の賜であると確信しております。

今年度は選歴を過ぎての第一年目であります。人間ならばそろそろ老境に入る年ですが、学校に老境はありません。本校創設時代の若々しく朝氣に満ちた気概を再現し、松の緑に象徴される繁栄を目指して進みたいと思つております。

同窓生の皆様の母校愛に期待し、益々のご指導、ご鞭撻を心からお願いいたしますと共に、同窓会のご発展を心からお祈り申しあげます。この栄光に輝く母校の副会長に御推薦をいただき、身に余る光榮と恐縮している者でございます。

本巣高校は、旧制本巣中学と本巣高女が一体となり、六十余年の歴史を誇る高校でございます。この栄光に輝く母校の副会長に御推薦をいただき、身に余る光榮と恐縮している者でございます。

幸い会員の皆様の暖かい御援助や御示唆をいただいて、会長さんや役員さんと共に微力ではありますが、精一杯つとめさせていただきます。副会長就任にあたって皆様の御協力、御支援を切にお願いし御挨拶と致します。

四十有余年ぶりの

母校訪問記

第十五回卒業生 八代 義隆

秋日和の好天氣に恵まれた或る一日、前日より岐阜市内において小倉、小木曽両先生を迎えた二十名近い同窓生が相集い一泊翌日は、谷汲参詣に赤石やなど楽しい日程を終えて、母校卒業以来訪れた事がない者、西は遠く福岡県在住の天野岐男君を始め、十名近い同窓生を小木曽先生と共に案内し、訪れた。

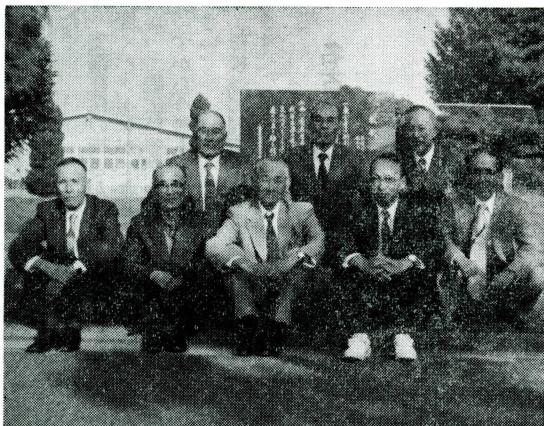
懐しい土手の松並木が目に入るや、急速その後藤先生のお出迎えを受け、校舎内の案内をしていただけ。先づ皆の口から最初に出た言葉は、南北に寄宿舎まで続いた八間廊下のあつた所はと異口同音に尋ねる。その場所を案内していくだく。その途中、誰かが突然図書館の建物を見つけると、皆一せいに振り向く。

ほどなく以前八間廊下のあつた場所につく。又誰かが控室を出た右側にあった井戸の位置、寄宿舎の位置等を尋ねる。後藤先生が寄宿舎のトイレは、まだその場所に残っていよいと云われる。それより一同は同窓生のうちには戦災に合つたり、紛失したりしてアルバムを持っていない者も多數おり、この卒業写真を借用でききるものなら複写し、皆に配付したらどうかとの意見があり、拝借することとし懐旧談に話がはずむ。

運動場に出ると控室前のいちょうの黄葉が美しく、幹廻りがものすごく太い。運動場の東南に亭々とそびえるボーラも一きわ高く、

どれを見ても懐しいものばかり。歩くうち東門に出る。自転車通勤で東の方向より通学したものは、表門より裏門の方が殊更懐しさを感じ、当日訪問者の殆どが裏門出退者で、自然に東門へと歩を進めていた。

案内の後藤先生は門を出るなり指をされ、これが六十周年記念事業として、かねてより念願であった第二運動場ですと早速門をあけられ、今日に至るご苦心の程を話され、一同感銘深くお聞きする。運動場に設置された時計塔は、本年三月卒業生一同の寄贈による最新式太陽計で、本校自慢のものが一つ増えたと喜んでおられた。又老朽化した図書館をこの運動場の一隅に移築し、合宿的な建物にする構想がある旨述べられた。更に今なお青く繁る土手の松の木の手入れは、全校生徒一千余名の手により行い、伝統あるこの松を一本も枯らすなどの合言葉と共に、歷代校長先生が引き継がれている由である。



中学校時代

回想あれこれ

第十五回卒業生 高橋勲

四十数年前のこと記憶は定かでないが、ア

ルバムを出して来て、その当時のことを想起してみる。

小生、生まれは揖斐郡揖斐川町森前小島山のふもと、揖斐川のはとりにあり山紫水明の地である。学校までは約十六キロの道程、自転車で約一時間ほどかかる程度なのでおさら校の折は稍上り気味で、北風でも吹いている時は難儀をしたものの、当初体が小さく、ペタルにやつと足がかかる程度なのでおさらである。幸い一キロ程離れた隣村に友人がいて、雑談を交しながら通学をしたので気が紛れ助かった。今から思うとよく通ったものだとつくづく思う。冬季は電車を利用したが、二年生の折だったが屋根のひさしまでくるような大雪で揖斐駅まで一里程歩いて行ったが、電車が動かず仕方なく、また雪道をとぼとぼと引き返して行ったが、そんなことで数日学校を休んでしまったことを記憶している。剣道寒けいこの折は朝まだ暗いうちに起きて、家を出る頃遠くで狐の鳴き声を聞くこと

一同もこれにつづく。小高いマウンド場に小木曽先生を立て輪を作り、校歌の合唱が始まつた。途中で日の出を迎え、そうかいな感じを味わつたこともあつたが、雪が積りペタル灯のようにならぬ頭の中をかけめぐる。終りに近づくに従い、ふと亡き友の顔が浮んでくる。皆の目がうるむ。小木曽先生はと見ると、涙を流し声にならない。後藤先生も感動され、共に歌つて下さる。歌い終り胸一ぱいで声もない。やがて小木曽先生の首頭で母校の益々の発展を祈念し、万歳を力の限り三唱し、後藤先生とお別れの握手をしつつ、懷しの母校を後に一路帰途についた。

(昭和五十六年十月二十五日の思い出出を記す)

入学した頃は小学校とは勝手が違い、何かと緊張をしていたようだ。服装その他規程があり、また最下級生、然も体格が小さいので何か圧倒感を持っていたが、二年生になつて馴れてきた。一年生の折は西川先生に英語を教えていただいた。始めての学習で一生けんめいであつたが、どうも単語が苦手であつたらしい。授業の始めにいつも單語のテストがあり、点数が悪いと放課後残されてテストを受け直した。一定の得点がなければ、いつまでも残される破目になる。小生もよく残された覚えがある。早く帰りたい一念で頑張つた。その後、小木曽、小倉先生などのご指導を得て英語が好きになつていった。小木曽先生の授業の時、余り雪が降るので、ほんやりと窓外の景色を眺めていた。

「香田、雪が降るで心配しとるか。」一喝されるところだが、意外にやさしい言葉でほつとしたものだ。今でも、こんなささいなことが妙に印象に残っている。

戦前の事とて、当時体操の中に教練という科目があった。夜行軍、連合演習など、思いい出に残ることも多いが苦手であった。というのも三式歩兵銃が小生にとって負担であった。自分の背と銃の高さといくらも違わない、重い銃を持つて駆けて行くのはえらかつた。あの糸貫川原での散兵戦の訓練、厳しいなかに樂しい思いがする。また各務原で行われる中学校陸上競技大会応援をめざしての屋外放課後の練習など、なつかしい思い出も残っている。

この中学五ヶ年間の学習生活全般が、その後の将来に於て大きく影響を及ぼしている。昭和の激動の時代をまがりなりにも生きて来られた原動力が、この時代に培われていたものとの思い、感謝の念で一杯である。

(自分勝手なつまらぬことを申し述べ失礼しました。)

支部だより

岐阜支部だより

岐阜支部長 佐倉武三

昨年五月九日（土）、ニューナガラ館で五十六年度支部総会を開催しました。出席者は中学校53名、女学校34名、高等学校27名、計一一四名で、本部から井深会長、河合学校長、八代副会長、後藤先生のご出席を戴き盛会裡に終りました。



も誰もが久し振りに知る母校の発展になつかしさを感じつつ楽しく観賞しました。
懇親パーティは鷺見茂幹事（昭5）の開宴の挨拶、井深会長の音頭で乾盃し、一齊に和気藹々のムードが場内にあふれ、先輩諸兄のスピーチあり、各会員から歌あり、詩吟ありで、誰もが今日の出席を喜び合うかのような本巣一式の賑々しさで楽しい会であります。

支部在住の皆さん、年一回こうした総会を開くバタンができました。クラス会とはちがつて幅広い年次会員との楽しい出合いの場ですから今後も会員誘い合ってご出席して下さい。母校並に同窓会のご発展をお祈り申しあげます。

名古屋支部だより

支部長 川瀬正一（昭2卒）

本巣高校名古屋支部会員は男五二九名、女四九二名です。昭和五十六年十一月二十一日、名古屋郵政金会館に於て、井深同窓会長、翠副会長、河合校長、東屋教頭、後藤事務局長をお迎へして、会員三十六名出席して総会を開きました。

十二時三十分から校長先生御持参の8%フルムにて、本巣高校六十周年祭典行事様子を見し、母校の近況などいかがいまし

た。十三時十五分より山田武夫氏（昭10年卒）の司会により始めました。小森敏郎氏（昭和10年卒）が病氣療養中の支部長挨拶を代読され、同窓会長、校長の挨拶に引き続き、第一回卒の矢橋彦四郎氏の音頭で乾盃し、宴は和やかに終始しました。

第一回卒の服部隆雄氏が母校の発展を祈り、又教頭先生が名古屋支部の発展を祝して、万才三唱をして十三時頃閉会しました。（出席者）

井深会長、河合学校長のご挨拶、後藤先生の会務報告に統いて議長を選出し議事に入り、支部規約を決め、顧問に野田誠存、白木盛造（大14）、横山勉（昭17）の三名、副支部長に広江保徳（昭7）、大野君子（昭11）、箕浦茂彦（昭29）の三名、外に監事二名、幹事20名の各役員が決まりました。尚ご出席の横山勉顧問（県副知事）からのご挨拶を戴き総会議事を終りました。総会後母校六十周年記念映写があり、会員

・小森敏郎・山田武夫（昭10）竹中重寿（昭12）沖昌隆（昭13）平工森次・佐久間道子・吉岡好子（昭14）安井孝一郎（昭19）北村正紀・馬渕章・清水清・栗本和幸・堀太郎（昭20）羽澄一子（昭21）堀部稔（昭22）神谷博・加藤笑子（昭26）高木昇一（昭27）神山昭二・鷺見茂（昭29）村木務・皆吉武治（昭30）社本幸子（昭31）棚橋範夫（昭37）

本巣高校京浜同窓会支部

支部長 川村福二

一月になって寒さも酷くなりました。皆様の御健康を念じて居ります。さて東京支部も暫く活動も致さず休眠状態で大変残念ですし、他の支部の御活躍に比し御期待に添わず申訳ない事と思つて居ります。

幹部諸兄の移動やら地域が広いやうで纏めのに困難して居るのですが本年度は兎角再建の努力を致し度と思つて居ります。未筆ながら学校の皆さん、同窓の諸兄に宜しく御伝え下さい。

慶賀

本年度（春・秋）それぞれ次の方々が叙勲されました。心よりお祝い申しあげます。

○藤井一美（女二回）
勲五等瑞宝章 保護司

○高橋賢雄（中一回）
勲五等旭日章
多年教育界に貢献

△転出△校長 関谷美智男（県教育委員会
教職員課課長）
講師 飯尾誠太郎（明智高校長）
今井淳（岐阜藍川高）
渡辺洋子（岐山高）
井深一郎（福祉事務所）
加納芳樹（揖斐高）
伏屋秀朗（岐阜工業高）
柴田滋司（関高）
安藤ちづる（土岐高）
△転入△校長 河合敏緒（県教育委員会
文化課課長）
教頭 竹林順祐（青少年課課長補佐）
土岐賢誠（岐阜工業高）
布山淳一（武義高）
高桐悦子（長良養護）

計報

謹んでご冥福をお祈りします。

○井深喜和子（女三回）
昭和56年5月29日逝去

○大野民子（女4回）
昭和56年7月14日逝去

○高橋忠兒（昭和47年4~56年8教諭）
昭和56年8月28日逝去

本年度卒業予定の生徒は四九九名、そのうち進学希望者のうち四大は男子延一八〇名、女子は延八五名、短大は男子延二名、女子は延一三三名、専修は男子一〇名、女子三六名である。就職希望者の一月現在の内定者は、織維商社二四名、金融一九名、製造一〇名、病院四名、公社二名、その他七名の計六六名で、公務員試験一次合格者は一七名である。

卒業予定者の進路状況

本年度卒業予定の生徒は四九九名、そのうち進学希望者のうち四大は男子延一八〇名、女子は延八五名、短大は男子延二名、女子は延一三三名、専修は男子一〇名、女子三六名である。就職希望者の一月現在の内定者は、織維商社二四名、金融一九名、製造一〇名、病院四名、公社二名、その他七名の計六六名で、公務員試験一次合格者は一七名である。

△転出△校長 関谷美智男（県教育委員会
教職員課課長）
講師 飯尾誠太郎（明智高校長）
今井淳（岐阜藍川高）
渡辺洋子（岐山高）
井深一郎（福祉事務所）
加納芳樹（揖斐高）
伏屋秀朗（岐阜工業高）
柴田滋司（関高）
安藤ちづる（土岐高）
△転入△校長 河合敏緒（県教育委員会
文化課課長）
教頭 竹林順祐（青少年課課長補佐）
土岐賢誠（岐阜工業高）
布山淳一（武義高）
高桐悦子（長良養護）

告知版

一、各地方にて支部総会、又は同窓会等開催される場合は本部へも御通知願えれば幸甚に存じます。（同窓会事務局）

一、五十七年度総会は八月二十一日（土）で大野町にて開催の予定です。

一、会員の方々の御逝去をお知らせ下さい。弔電を本部より打電します。

○安藤清（昭和39年4~49年3講師）
昭和56年11月13日逝去
吉岡好子（昭14）安井孝一郎（昭19）北村正紀・馬渕章・清水清・栗本和幸・堀太郎（昭20）羽澄一子（昭21）堀部稔（昭22）神谷博・加藤笑子（昭26）高木昇一（昭27）神山昭二・鷺見茂（昭29）村木務・皆吉武治（昭30）社本幸子（昭31）棚橋範夫（昭37）

○小森良雄（中23回）
昭和56年12月1日逝去
昭和五十六年度